

学年だより第3号
平成30年
12月14日**疾風の勁草となれ!**

形が変わるだけで本質は同じ!

君たちが受験する最初の大学入試共通テスト(以降、共通テスト)の第2回目の試行テストが先月に実施され、1回目よりさらに本番を想定した問題が出されました。さらに、「英語外部検定」に関するニュースも連日のように報道され、自分の受験する大学はどうなるのかと不安を抱いていると思います。ここで今、最も考えてはいけないのが「なぜこのタイミングで試験が大きく変わるんだろう、運が悪いなあ」という被害者意識です。これら一連の入試改革は、入試システムの根本的変化ではなく、時代の要求に即したマイナーチェンジにしかすぎません。従って、君たちに求められている学びの本質は、全く変わっていないということを再確認しましょう。

さらにもう少し長い目で見れば、君たちはこの様な状況の変化を、長い人生の中で何度も経験するに違いありません。だから、こうした変化に翻弄されるのではなく、物事の本質を見極めて自らの行動(選択)を決断していく他ないのです。今回は、大学側が『急速に変化するグローバル社会に対応できる人材を育成できているのか?』という社会の声に応え、グローバルな戦いに耐えうる(生き残ることができる)人材の候補を選抜したいという想いをもって、入試改革を決めただけなのです。

それでもまだ、何で変わるの?とと思っている君たち、こう考えてはどうでしょうか?「従来の試験制度やアドミッションポリシー(大学が求める入学生の姿)に対応する学びを重ね、苦勞して大学に入ったところで、今後のますます変化するグローバル社会には通用しない可能性が高かった。」すなわち、「自分たちは今からグローバル人材になるための学びを始められてラッキーだ!!」と考えてみてください。

ここで、君たちが受験する大学入試の変更点とその対応をまとめてみます。

①共通テストへの国語、数学の記述式問題の導入

→普段から正解のみならず、そこに至る過程をしっかりと書きとめ、説明できるようになる。必要な内容を端的に相手に伝わるように表現できる。

②英語の4技能(R,L,W,S)評価「英語認定試験」

→文法を決して疎かにすることなく、語彙力を付けて英文読解にひたすら励む。さらに、自分の考えをまとめたり、相手の意見に対する反論が言えたり、書けたりするようになる(表現力)。

③マークシート式問題の改善(答えが複数個ある問題、解答が前問の解答と連動し正答の組み合わせが複数ある問題)

→従来の知識や技能の定着と暗記だけではなく、考えることが習慣化できる。情報を分析し、関連付けたり統合したりすることができる。

④主体性評価の重視

→今まで以上に、積極的に様々な活動(具体的には、学習と部活動以外)に参加して高校生としての経験値を高めておくことが求められる。今やっているSGH探究の授業はその最も身近な対象になる。自ら積極的にコミュニケーションすることが自然にできるようになる。

最後に、11月進研模試の結果が返ってきました。君たちの成績は過去の先輩と比較しても同等、それ以上の優秀なものでした。これからの生活で大事なものは、勉強、部活動、委員会(生徒会)、SGHと本当に良く頑張っている「自分」を褒めて1日を終わることです(自己肯定感と言います)。そして、的確な情報を収集するためのアンテナを高くしつつ、自分の進路目標の実現に向けて一歩ずつ前進していきましょう。そのスタートを切るために、「冬休み」という絶好の機会が与えられたと考えてみてはどうですか?